No.２６１１

スノーシュートレッキングで花の百名山へ
四 阿 山

実施日　2013年３月７日(木)～９日(土)
天　候　晴れ～薄曇り
リーダー　若村　勝昭
参加者　若村勝昭、涌井良明、山崎富美恵、石附智江、渋谷賢寿、伊藤久雄、石原勝正　計7名
費　用　JR(新幹線)約8,900円、宿泊費　22,000円(２泊)
タイム　3/8　あずまや高原ホテル(8:15)～途中経過あって、四阿山頂(12:30･12:45)～頂上下の森林帯入口(12:50･13:20昼食)～途中、適宜休憩やカメラ、転倒起き上がりを経てホテル前帰着(15:40)

まず初めに、羊頭狗肉をお詫びいたします。
計画では、第1日も、第3日もスノーシューを楽しむつもりでしたが、宿泊先のロケーションの都合で（登山口への移動がタクシーのみで面倒）第2日目の四阿山登頂のみに終わってしまいました。計画倒れでした。申し訳ありません。
さて、というワケで第1日目はホテルチェックイン後、近くの森の入り口で雪上でのツエルトの張り方練習を軽くして、その後は眺望絶景の露天風呂へドボン。はるかに浅間山を望みます。
第2日目、天気は晴れで結構暖か。オーバーズボンは穿かず、上もやや薄着。ホテル前の林道でスノーシュー装着、別荘地を抜け牧場の登山道に入る。

一面牧草地なのでどこでも歩けるが、トレースをはずれればスノーシューを履いていてもちょっともぐる。左手に根子岳の斜面を見る。これもなだらかな斜面で登り易そう。
やがて、樹林帯だがそんなに急でもない。スノーシューの歩きにも慣れ、カメラタイムも取り、ゆっくりゆっくり登る。
他の登山者も居ないので、独占状態。でも頂上下で、1人に抜かされた（この人は頂上の祠を掘り出す人）。

やや風も出て、ウインドブレーカーのジッパーを上げ、時々フードも被った。
頂上直下はやや急斜面なので、43m 下でスノーシューを脱いでデポ（スノーシューは急な下りは苦手）、キックステップで登る。

頂上からは遠くは雲があるが、360度の視界。草津白根、戸隠、北アルプス、浅間を見る。風強い。
下って、昼食。冬の山の昼食は立って食べられるもの、凍らないものが原則。ランチパックや大福、ナッツ、チーズをほおばる。
登路を忠実に辿って下山のつもりが、やがて大きく左にズレている。違う谷に降りてしまうと戻るのが大変。

メンバーのＧＰＳが大活躍で、元の道に戻る。やはり最新兵器は頼もしい。さらにその機器を使いこなす人は頼もしい。私には無理だ。
疲れも出て、雪道で何度か転倒。一人では起き上がれない。その都度、3人がかり（埋まったスノーシューを掘る、手を差し伸べ引き起こす、後ろから声だけで励ます）で助けられた。
そんなこんなで、ホテル帰着。すぐ温泉へ。夕食はフルコースのご馳走。
こんなメニューでした。
食前酒　うめ酒／先付　青豆豆腐・辛味噌・くこの実／前菜　あさりのぬた・杏シロップ煮・海老・尼子南蛮漬け／お造り　牡丹海老と帆立のおつくり・妻一式／蒸し物　茶わん蒸し／焼物　鰆味噌柚庵焼／鉢肴　虹鱒の煮浸し・蓬麸／揚物　椎茸・金時芋・白葱／強肴(ｼｲｻﾞｶﾅ)　猪鍋／御飯　炊込御飯(卓上で個々の釜で)／椀物　味噌汁／香の物　野沢菜漬／水菓子　柚子ｿﾙﾍﾞ
第1日目の夕食も2日間の朝食も良かったです。おすすめの宿(あずまや高原ホテル0268-74-3300)でした。
第3日目は10時半のホテル送迎バスで上田駅へ、春のような温かさの中で希望者のみで上田城跡と市内散策、おばさん食堂で盛りだくさんの松花堂風弁当のランチ、そして帰京しました。

（記・若村　勝昭）
（写真提供・涌井良明／伊藤久雄）